

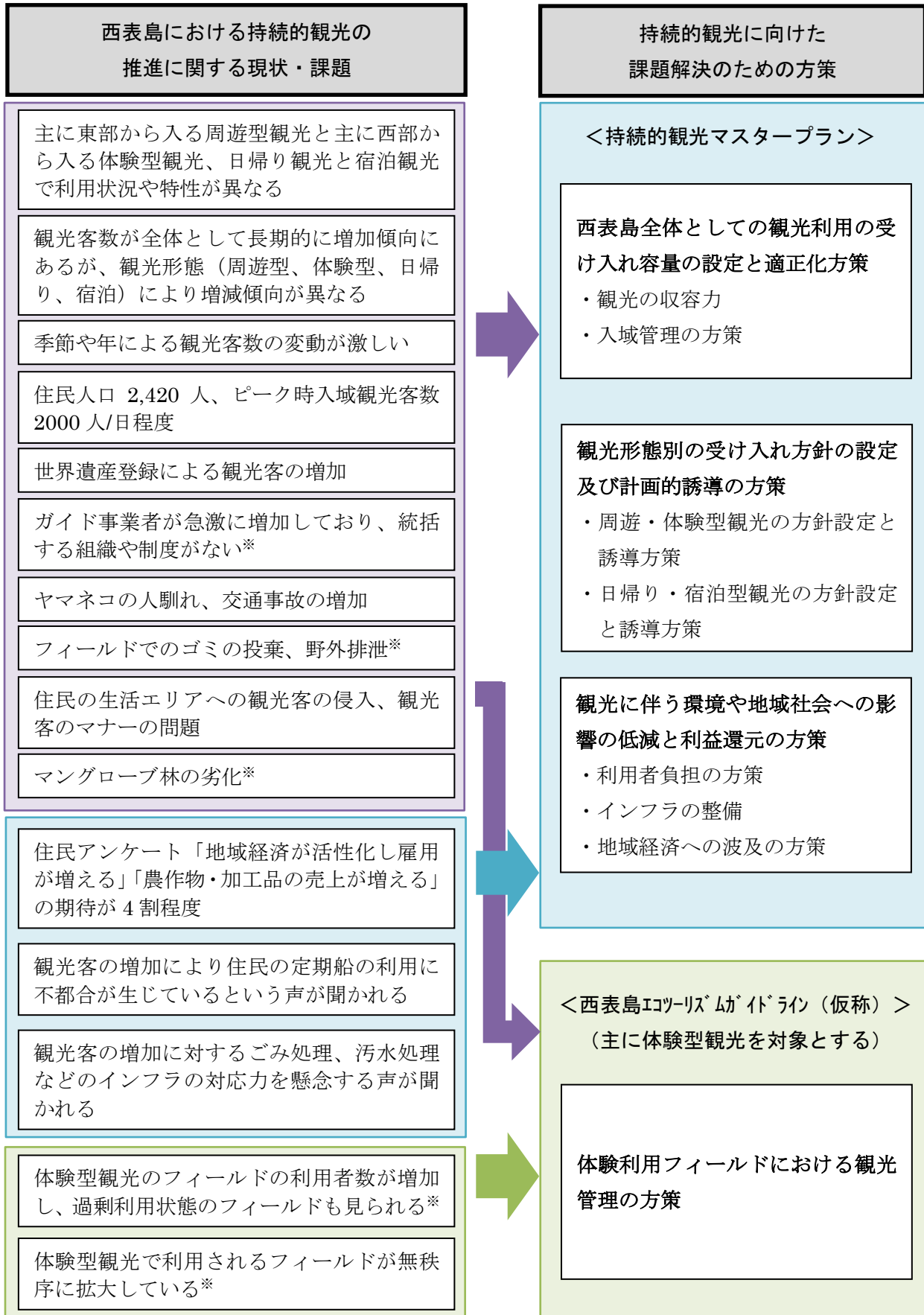
## 持続的観光の推進に関する現状・課題・方策（ヒアリング意見概要）

## ■ヒアリング実施状況

グループ	実施日	ヒアリング実施対象者
○地元住民 代表	11月7日	大原公民館長
	11月7日	船浦公民館長
	11月7日	上原公民館長
	11月7日	中野公民館長
	11月22日	住吉公民館長
	11月22日	浦内公民館長
	11月7日	千立公民館長
	11月7日	白浜公民館長
	11月7日	上原地区連合公民館長
	11月8日	東部地区公民館連合
☆有識者	11月29日	北海道大学大学院農学研究院 准教授 愛甲哲也氏 (公園の計画・管理)
	12月6日	京都大学農学研究科 教授 栗山浩一氏 (環境経済学)
	11月28日	神奈川大学法学部 准教授 諸坂佐利氏 (公法学)
◇観光・交通 関連団体	11月17日	竹富町観光協会 宿泊部会西部地区
	11月8日	西表島エコツーリズム協会
	11月22日	西表島交通グループ
	11月8日	いりおもて観光(株)
	11月8日	(資)浦内川観光
	11月8日	八重山観光フェリー(株)
	11月21日	八重山ビジターズビューロー
△地元関係 団体等	11月7日	沖縄県猟友会 竹富町地区
	11月7日	NPO法人トラ・ゾウ保護基金西表島支部やまねこパトロール
	11月7日	琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設
	11月7日	西表石垣国立公園パークボランティア
□行政機関	11月2日	環境省那覇自然環境事務所西表自然保護官事務所
	11月2日	林野庁九州森林管理局沖縄森林管理署
	11月2日	林野庁九州森林管理局西表森林生態系保全センター
	11月2日	沖縄県環境部自然保護課
	11月2日	沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課
	11月2日	竹富町政策推進課

※その他、竹富町観光協会、(有)安栄観光、石垣島ドリーム観光(株)、NPO法人どうぶつたちの病院沖縄、東海大学沖縄地域研究センター、石垣市観光交流協会、西表島内の各公民館長にヒアリングの呼びかけを行った。

■西表島における持続的観光の推進のための課題整理（案）



※主に観光客・観光事業者の利害に関する課題

■持続的観光に向けた課題解決のための方策についてヒアリング意見概要

項目	主な意見
(☆：有識者 □：行政機関 ◇：観光・交通関連団体 △：地元関係団体等 ○：地元住民代表)	
西表島全体としての観光利用の受け入れ容量の設定と適正化方策	
観光の収容力	<p><b>&lt;収容力の設定の是非について&gt;</b></p> <p>△収容力の数値は出したほうがいい。</p> <p>△住民感情としてこれ以上観光客を増やしてほしくない（年 30 万人程度）。</p> <p>○持続的にするためには観光客を減らすしかない。</p> <p>◇利用する時間帯をずらす、逆周りのコースを設けるなどの工夫すれば、利用できる人数は変わってくるので、上限をはっきりしないと考えている。</p> <p>□人数設定については観光形態（周遊型、体験型、日帰り、宿泊）の違い等も考慮して慎重に検討すべき。</p> <p>☆収容力の人数を決めることにはあまり意味がない。数字を出すとしてもあくまでもモニタリングを行って管理していくための目安である。</p> <p>☆上限人数は価値観・算出方法によって変わるため科学だけで決められない。</p> <p>☆西表島では様々な利用形態があるので島全体での数を出すのは難しい。</p> <p>☆収容力の数字を決めるよりも、西表島の価値とそれに対する問題・影響を整理し、それが起きないように管理ができる仕組みを作ることが重要である。</p> <p><b>&lt;収容力について検討する上での留意点&gt;</b></p> <p>□△数値を出すのならば設定の根拠をはっきりさせる必要がある。</p> <p>△数値を出すのならばモニタリングを行って数年ごとに見直すのがよい。</p> <p>△水、ゴミなどの負荷の観点から、宿泊客、日帰り客等の利用形態の違いも考慮して整理すべき。夏と冬でも許容量が違う可能性もある。</p> <p>◇住民と観光客の比率を根拠として人数設定を考えてはどうか。</p> <p>☆船や宿泊など物理的な収容力、混雑度など心理的な収容力は出せるが、生態系への影響から収容力を出すのは難しい。</p> <p>☆具体的な問題・影響について、フィールドごとにどの程度の人数でどのくらいの問題・影響が出るか考えていくことはできる。</p> <p>☆地元の利害関係者や議会等が上限設定に反対して設定できない場合が多い。</p>

項目	主な意見
(☆：有識者 □：行政機関 ◇：観光・交通関連団体 △：地元関係団体等 ○：地元住民代表)	
入域管理の方策	<p><b>&lt;入域管理の方策&gt;</b></p> <p>△ガイド料や宿泊料を規定し、その価格によって入域を制御してもよいだろう。</p> <p>☆マイカー規制やバスの数、宿泊施設の数などで物理的に制限するのが有効。</p> <p>☆島全体をエコツーリズム推進法の特定自然観光資源とするのは難しいだろう。</p> <p>☆入域料で利用者数を制限しようとするとは非常に高額となるため難しい。</p> <p>☆トラベルコスト法で入域料の金額に対する入域者数の減少率を推定できる。旅費が高いほど高額の入域料を払うので、一般に離島の国立公園だと1000円では全然減らない。(富士山で人数が3割減る金額は7000円と推定されている)</p> <p>☆自然環境が重要なところで人数を抑制したいときには、料金徴収と人数規制を組み合わせることが効果的な場合が多い。</p> <p><b>&lt;入域管理を検討する上での留意点&gt;</b></p> <p>◇島の入り口で規制すると、客が減っていて自然への影響も少ない周遊型観光がさらに減るため、人数制限はフィールドごとに行ったほうがよい。</p> <p>◇旅行形態や季節により状況が異なり、個人観光と周遊型観光は分けて欲しい。</p> <p>◇入域は宿泊客を優先し、規制は日帰り観光を対象にしてはどうか。</p> <p>◇フィールド<sup>※</sup>を利用する時間をずらすために1時間あたりの人数を決めるとよい。</p> <p>◇細かく時間で区切ると、悪天候でもフィールドを利用したり車を飛ばしたりしてしまうので、1日何人と決めて午前と午後で分ける程度ではないか。</p>
観光形態別の受け入れ方針の設定及び計画的誘導の方策	
周遊・体験型観光の方針設定と誘導方策	<p>□滞在型と周遊型でピーク時期も利用エリアも与える影響の種類も違うので、それらをしっかりと捉えた上で方針を示すべき。</p> <p>○地域の伝統文化を守ることで自然を守るような観光になってほしい。</p> <p>○水族館や博物館等の施設や耕作放棄地の活用によって地元の自然や文化を見せられるとよい。</p> <p>□西表島の自然環境やその保全のためのルールを伝えられる施設があるとよい。</p> <p>◇野生生物保護センターが営業日増や駐車場整備で利用しやすくなるとよい。</p> <p>◇周遊型観光では自然の中に深く入らないためある程度自然が守られる。</p> <p>◇周遊型観光が特定の観光地に集中しているので、他に分散できるとよい。</p> <p>○西表島の特別のルールや「西表島憲章」のようなものを作れるとよい。</p> <p>◇石垣港離島ターミナルのモニターで多言語でルールを周知できるとよい。</p> <p><b>※体験型利用については「体験利用フィールドにおける観光管理の方策」も参照</b></p>
日帰り・宿泊型観光の方針設定と誘導方策	<p>△滞在型観光は地元にお金落ちるといい点では良いが、収容力が不明。</p> <p>△宿泊施設が増えると水利用に影響が出てくる。</p> <p>○宿泊すると車の数や生活排水が増えるので日帰り観光でよい。観光は受け入れ体制の整備と並行して進めるべき。</p> <p>○宿泊客のほうが落ち着いていてありがたい。宿泊施設のキャパが特に東部で足りず、行政とも連携して増やせるとよい。</p> <p>◇地元にお金を落としてもらうために宿泊の推進が鍵である。</p> <p>◇宿泊推進のためには交通手段、宿、飲食店など総合的に取り組む必要がある。</p> <p>◇石垣泊のバック旅行に対抗して、飛行機と西表島の民宿での宿泊をセットで売る方法が考えられる。</p> <p>◇エージェン트頼りではなく、観光メニューを西表から提案する必要がある。</p>

項目	主な意見
(☆：有識者 □：行政機関 ◇：観光・交通関連団体 △：地元関係団体等 ○：地元住民代表)	
観光に伴う環境や地域社会への影響の低減と利益還元の方策	
利用者負担の方策	<p><b>&lt;利用者負担の是非と対象&gt;</b>  □観光事業者から取る方法と訪れる方から直接取る方法が考えられる。  ◇協力金はとるべき。石垣で先に導入されるとやりにくいので、早く始めるべき。  ○入島税を導入することで本当に来たい人だけが来るとよい。  △国立公園の入園料として強制的に取り、住民は除外すべき。  △徴収にあたって観光客とそれ以外をどう区別するかという問題はある。  ◇障害者や高齢者、子供、生活保護受給者などは除外できるとよい。  ☆住民の意見を聞きながら検討を進めるべきである。</p> <p><b>&lt;徴収の方法&gt;</b>  △西表島には船でしか来れないので、船でお金を取るとよい。  ◇船での徴収には事務的負担、地元の人の判別方法、船代込ツアー等の取扱い、3社での調整などの課題がある。全員から取るのであれば比較的取りやすい。  ☆船で取る場合、石垣から自分の船で来る人への対応は検討すべき。  ◇トイレや駐車場の使用に対してそれぞれ利用料をとるのがわかりやすい。  ◇各地点でお金を取るのなら、それぞれの場所の管理を誰がやるのかが問題。  ☆各地点で徴収すると人出もコストもかかるため、島の入り口でとるとよい。  ◇こちらに来て初めて協力金を知ったということがないように普及啓発が必要。  ☆現場のマネジメントをしっかりと考えて取りはぐれをなくすことが重要。  ☆海外客は任意だとほとんど支払わないので、強制徴収にしたほうがよい。  ☆法定外目的税は一定の目的で条例のもとに税金を取る仕組みであり、西表でも適用できる。季節によって金額を変えることはできる。  ☆任意の協力金ではなく税金にした場合も、島民を対象から除外することはできるだろう。全員から取っておいて島民には還付金を出すというやり方もある。</p> <p><b>&lt;金額の設定&gt;</b>  ◇半日で帰る人と何泊もする人が同じ金額でよいのか。  ☆料金は運用やわかりやすさも考慮して決め、モニタリングをして見直すべき。  ☆財源としての最適な入域料金は選択型実験で分析できる。  ☆入域料の徴収の目的には、環境整備等の資金確保と、料金により入域人数を抑制することの2つがある。人数抑制には高い料金を設定する必要があるが、資金確保は比較的低い料金設定でもそれなりの資金の確保は可能である。</p> <p>※入域抑制の効果を期待する場合の金額については「入域管理の方策」を参照</p> <p><b>&lt;徴収したお金の使途&gt;</b>  ○入島税で得られたお金を山の整備や県道の草刈りに使えるとよい。  ◇金額を決める前にどれくらいのお金がかかるのか検討すべき。ハード整備は行政のお金でやってほしい。利用者からとるお金は管理費用に充てるべき。  △使途として、海岸清掃と草刈りとトイレの管理は優先順位が高い。  ☆お金の使途は条例に具体的に定めるとよい。利益集団に使ってはいけないが、制度の運用管理、住民のインフラ整備、自然環境保全等には充てられるだろう。  ☆利益が上がるなら環境保全やモニタリング、ガイドの認定等に充ててもよい。  ☆西表島の観光客へのアンケートでは、自然に使ってほしいという意見が多い。  ◇☆お金を取る目的、集めたお金の使途等をきちんと周知するべきである。  ☆協力金は使途を明確に示しておかないと疑念が生じ、協力が得られにくい。</p>



項目	主な意見
(☆：有識者 □：行政機関 ◇：観光・交通関連団体 △：地元関係団体等 ○：地元住民代表)	
インフラの整備	<p>○観光よりもまずは生活環境の整備をなんとかしてほしい。</p> <p>△定期船で住民を優先的に扱うこともできるのではないかな。</p> <p>△観光客から取ったお金でインフラ等の整備ができると納得感はある。</p> <p>△インフラは維持管理が重要であり、そのお金を入島税で賄えるとよい。</p> <p>△なにもないのは西表島の良さでもあり、本島と同じような整備は不要。</p> <p>△大原の駐車場をシンプルなものにすればより多く停められる。</p> <p>◇大原港、県道、フィールドなど、トイレは現状では少なすぎるので必要。</p> <p>◇トイレの管理を公民館などで行うのは負担もあるので業者に委託すべき。</p> <p>□港の本来の整備目的と観光客の現状が乖離しており、今必要な整備ができない場合がある。整備目的の見直しのレベルの検討も必要である。</p> <p>◇レンタカーに制限速度装置やドライブレコーダーをつけてはどうか。</p>
地域経済への波及の方策	<p>○港に地元産品を売る市場や物産店を設けるなど、観光によって地域に恩恵が入る仕組みがあるとよい。</p> <p>△軽トラ市のように港に並んで好きなものを売ることはできるのではないかな。</p> <p>△農産物からの商品開発を推進するとよいのではないかな。</p> <p>□ブランド化や認証により世界遺産の保全と地域産業振興を両立できるとよい。</p> <p>◇地元産品の使用など観光業の波及効果が目に見える形で示されるとよい。</p> <p>◇観光事業者としては、税金を収めたり、地元の子供達に自然を体験させたりといった地域貢献の方法がある。</p>
体験利用フィールドにおける観光管理の方策 (※主に西表島エコツリズムガイドライン(仮称)で対応)	
	<p><b>&lt;ガイド利用の管理について&gt;</b></p> <p>○ガイドが利用できる上限数等を定めて規制すべき。</p> <p>◇ガイドの人数を増やさないような登録制度が必要</p> <p>○例えば5年住んで町が認可した人や区長が推薦した人しかガイドができないような仕組みがあるとよい。事故を減らすためのガイドの指導も行うべき。</p> <p>☆環境配慮と安全管理の観点でガイドを認定する制度を作り、あわせてガイドを統括する組織を作るべき。それらは実効性を持たせるために入域とセットにするべき。また、認定・組織加入のガイドを推奨する仕組みがあるとよい。</p> <p>☆ガイドの数をしっかりとコントロールするためには免許性の制度にすべき。</p> <p>◇消防団の救助が負担であり、ガイド事業者で救助の体制を作るべき。</p> <p>◇規制だけでなくチェック機能が重要で、ガイド自身にそれを持たせるべき。</p> <p>☆ルールにはパトロール体制が重要である。通報者に補助金を出す例がある。</p> <p><b>&lt;フィールドの管理について&gt;</b></p> <p>◇利用する場所を決めておいて人数制限を行うといった対応が必要。</p> <p>☆受け入れる場所と受け入れない場所を決めて関係者で合意しておく事が大事。</p> <p>○フィールドに入らせないと強い規制をかけて欲しい。</p> <p>◇ガイドが付いていなければ山に入ってはいけないと言ってしまえるとよい。</p> <p>◇各フィールドでは、1日何人という決め方だとコントロールが難しい。</p> <p>◇利用フィールドに数本のルートを作って疲弊したルートは休ませるとよい。</p>